

法政大学教職課程センター 多摩だより

★第 66 号★2024 年 6 月 7 日発行
法政大学教職課程センター多摩相談室
総合棟 1F・食堂横ガラス張り奥の部屋
(月～金)10:00～18:00

相談員在室日:月・火・水

7月30日(火)・7月31日(水)

お知らせ

二次試験対策講座 開催します！

今年も夏の二次試験対策講座の開催が決定いたしました！

講師にお招きするのは、校長経験のある先生方です。

ご希望の方は教職課程センター多摩相談室へメール・または窓口にてお申込み下さい。

皆さまのご参加お待ちしております！！

※個人面接は枠に限りがあるため、各日先着順となります。

◆会場：総合棟4階 大学院演習室2・3 ※当日はスーツ着用をお願いします。

◆時間：10:00～18:00の間(申し込み終了後、時間を振り分けます)

※ 申し込み締切 7月12日(金) 12:00

(※当日、講座の記録として写真撮影をさせていただきます。予めご了承ください。)

《このイベントは後援会助成金で実施しています》

【メール申し込みの場合】☆宛先・kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp

(※件名は「二次試験対策講座申し込み」をお願いします)

☆下記①～⑩を明記の上、教職課程センター多摩相談室までお申し込みください☆

①氏名 ②学部・学科 ③学年 ④学生証番号 ⑤携帯電話番号
⑥Eメールアドレス(PCから受信可能なもの) ⑦採用試験受験希望自治体 ⑧受験教科
⑨参加希望日時:7/30(火)・7/31(水)※両日申し込み可

(原則として終日空けておいてください。申し込み締め切り後、時間割を組みます)

⑩希望内容:個人面接・集団面接・集団討議・模擬授業 からお選びください

(※申し込み状況によっては、両日参加希望であってもどちらか一日のみになることや、また個人面接のみ希望者にも集団面接・集団討議にご協力を頂く場合があります。予めご了承ください。)

～ご参加お待ちしております！！～

◎教職相談の申し込み、質問はこちらへ

(窓口へ来室、もしくはメールにて事前申し込み)

(月・水) 柳原先生
(火) 川嶋先生

※教職履修・単位に
関わる質問は、所属
学部窓口へお願いし
ます。

メールは、公的な依頼文にふさわしい文体・体裁を考え、かつ以下の内容を必ず盛り込むようにして下さい。

①氏名 ②学部・学科 ③学年 ④学生証番号 ⑤面談希望時間(第3希望まで) ⑥相談内容 ⑦メール・アドレス(PCから受信可能なもの)を必ず記入してください。

*宛先: kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp

《「教員になりたい」という思い》【相談指導員：柳原 忠夫】

先日、来年度の教員採用試験の日程について、文部科学省が「5月11日に前倒しするよう」に全国の自治体に要請したという報道がありました。これは6月から企業の内定面接が始まることと、5月から6月にかけては教育実習が多いことを考慮したものと思われます。

しかしながら、一次試験が5月11日となれば受験申し込みは3月上旬になるでしょうから、忙しくなりますね。また、これまでの日程を考えると一次試験の合格発表が1ヶ月後、その2週間後が二次試験ですから、二次試験が教育実習の真っ最中になることも予想されます。

教員採用試験をどんどん前倒ししたり、先生の給与（調整額）を上げたり、教員の確保にあの手この手を打っている感じですね。しかし、私はそんなことをしてもしなくても、先生になりたいと思う人はなるし、なりたいたいと思わない人はならないんだと思います。当たり前のことを言っているようですが、それはやはり、教員という仕事が一般企業とは少し違った性格を持っているからだだと思います。教員を志す人は、そこにある種の魅力を感じ、やりがいを感じ、情熱を感じる人でしょう。

1950年～1970年代の高度成長期、教員の採用枠が急増して誰でも簡単に教員になれて、「でもしか先生」と揶揄された時代がありました。「他にやりたいことがないから先生でもやろう」「特技がないから先生にしかなれない」という意味です。現代も教員採用試験の倍率が下がっていますが、「倍率が低いから先生にでもなろうか」と言う人はいないと思います。倍率は低いけれども、やはり「先生になりたい」という気持ちを持っている人が、先生になっているでしょう。

教員になるか企業に入るか迷っている人も、企業を体験してから教員を目指そうと思っている人もいるかも知れません。いずれにせよ、教員に必要なのは、教員になりたいという思いです。

みなさんも、是非、強い意志で目標を達成されるよう、頑張ってください。

《教職の魅力について その2》【相談指導員：川嶋 克弘】

教職課程を履修している学生の皆さんの中には既に教育実習を終えた人、今まさに実習中という人、これからという人もいます。その実習期間中に体育大会があった人もいるでしょう。

さて次に紹介するのは、体育大会が終わったあとに中学2年生の女子体育委員が書いた作文の一部です。体育大会準備期間中の練習では、「ハリケーン」と呼ばれる学年種目は下位低迷。全員リレーでは最下位候補とまで言われていた自分のクラス。それが体育大会当日、学年種目は7クラス中2位、全員リレーは4位の健闘という結果でした。

（前略）一人ひとりが全力を尽くせば、こんなにも良い結果につながるのだったって思った。そのとき私は初めて「みんなが団結して、全力をつくしたから良かった」「体育委員をやっていて良かった」って思った。最後の結果発表を楽しみに待った。5組はギリギリ3位入賞。とても嬉しかった。賞状をもらって教室に帰ってきた。体育委員だから最後にみんなの前で一言。私はうれし泣き。とても嬉しくて、すごく楽しい1日だった。勝てたのはキセキじゃなくて、みんなが団結して、全力を尽くせたからだと思う。一生の思い出になった。体育委員をやって本当に良かった。最後に、こんな体育委員についてきてくれたみんなに感謝！合唱コンも絶対優勝して思い出に残る1年にしよーねっ！！

学校行事は教育的目標・目的を持って実施されます。スポーツは得意な生徒、苦手な生徒が必ずいます。また、やる気がある生徒、そうでない生徒もいることでしょう。何故なら学級というものは多様性に溢れているものだからです。バラバラだったクラスの生徒の気持ちが少しずつ一つの目標に向かって行く、その目標のためにみんなが協力・団結し、クラスがまとまっていく。ここに体育大会の大きな目的の一つがあります。対立や和解、泣いたり笑ったり、さまざまなドラマがあります。教師はその過程に寄り添うこと、生徒たちの成長に立ち合うことに大きな喜びを感じることができるのです。

学級は「社会の縮図」とも言われます。今、世界はさまざまな課題・問題を抱えています。それらを解決していくには、人々が協力すること、ときには団結することが必要です。中学校・高等学校は、これらの人間の力の礎を学ぶ場でもあるのです。